

## はじめに

平成 16（2004）年 10 月 23 日午後 5 時 56 分に発生した新潟県中越大地震が、我が小千谷市を破壊し尽くし、多くの尊い命を奪ってから今年で 10 年が経過いたしました。想像を超えた甚大な被害により、その後の生活に大きな影響を受けた市民一人ひとりにとって、震災を乗り越え今日に至るまでの月日は、忘れることのできない記憶として残るものと思います。

私たちはこの 10 年間、国内外から多くの温かい支援を受けながら復旧復興に努め、今日の姿を取り戻すことができました。大震災に遭遇し、一瞬、小千谷市の再起は不可能かと思ったものの、その後、市民が持ち続けた意識は、常に小千谷市の明日を思いつつ、ひたすら復旧復興に努めることでありました。雪国で鍛えられた市民の粘り強い精神は大震災で失ったものを徐々に取り戻し、10 年を経た今、復興の確かな成果を実感できるようになったと言えます。この間の市民や関係各位のご尽力に対し、改めて感謝を申し上げたいと思います。

未曾有の災害を忘れることなく、常に備える心を持つこと、復旧復興に努めたこの 10 年の歩みを記憶しておくことは大事だとは思いますが、私たちにとってもっと大事なことは、震災によって失ったものをようやく取り戻した今、これから後、本来たどるべきわが市の発展の道をどう進んでゆくかということだと思います。

その意味では、今回取り組んだ復興計画の長期検証は、これから我が市が進むべき方向を示す指針としての役割を果たす価値あるものだと思います。私たち市民は、この度の検証によって大きな試練を克服した力を確かめるとともに、その力を持続させて一段の飛躍に繋げる努力をしたいものです。

おわりに、この復興計画の長期検証を行うに当たりご尽力いただいた小千谷市復興推進委員会の皆様や、ご協力をいただいた市民の皆様に心から感謝申し上げますとともに、住みよいまち小千谷の発展へ向けて、引き続き一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成 26（2014）年 10 月

小千谷市長 谷井 靖夫



## ごあいさつ

今年、平成 26（2014）年 10 月で中越大震災からちょうど 10 年になります。小千谷市復興推進委員会では、この 10 年間に短期・中期・長期の 3 つに分け、それぞれの時期ごとに復興の現状を検証するとともに、新たに発生した課題への対応について検討してまいりました。この報告書は、その総仕上げにあたる長期の検証報告書です。

この 10 年間の復興のあゆみを一言で表現すれば、「まじめな復興」ということだと思います。もちろん 10 年前に、現在の姿を全て見通せたわけではありませんので、予定通り達成できたもの、途中で断念せざるを得なかったものなど、さまざまな課題があります。しかし全体を通してみると、市民のおよそ 8 割の方がすでに復興を実感しているという調査結果が得られています。それぞれの課題に対する達成度も、短期・中期・長期と進むにしたがって、目標が達成されたと考えている方の占める割合が大きくなっていることが調査結果から分かります。

復興したとはどういう状態か、一言で表現することは難しいと思います。しかし、小千谷市で取り組んだように、短期・中期・長期と継続的にデータを取りながらその推移を検討することによって、少しずつ復興の姿が見えてきます。これは、ある時突然調査しただけではわかりません。復興の道筋を丹念にデータで追いながら、「小千谷市の復興の姿」を把握してきたからこそ確認できるものです。

小千谷市復興推進委員会では、このような長期にわたる継続的なデータの蓄積のもとに、総合的に復興の状況を評価・検証しました。その結果、小千谷市は震災からの復興の状態に至ったと判断することができる、という結論に至りました。このように長期的なデータの蓄積から復興の状況を確認したということは、わが国の防災の歴史の中でも数少ない事例だと考えています。

東日本大震災の被災地においても、現在多くの自治体で復興に取り組んでおられます。小千谷市のこのような事例を参考に、長期にわたって継続的に情報を蓄積するとともに、復興の歩み具合を常に検証し、それぞれのまちの復興の姿を把握していただければと思います。

最後に、これまでの 10 年間の小千谷市の皆様の地道な努力に敬意を表するとともに、今後のますますの発展を願ってやみません。



平成 26（2014）年 10 月

小千谷市復興推進委員会

委員長 田中 聡

# 目 次

■序章 新潟県中越大震災 小千谷市の被害の概要	1
1 地震の概要	
2 被害の状況	
3 緊急対策活動	
・写真で振り返る10年～復興へのあゆみ～	
・年表で振り返る10年～復興へのあゆみ～	
■第1章 小千谷市にとっての「中越大震災」とは	13
1 阪神・淡路大震災の知見	
2 中山間地域における復興の課題	
3 社会・経済状況による復興への影響	
4 復興への道のり	
5 震災が与えた小千谷市への6つの復興課題	
■第2章 小千谷市が目指した新たな復興の姿	19
1 市民参画の計画策定	
2 市民・地域・行政による検証	
3 市民参画による計画策定・検証の意義	
4 小千谷市民にとって「復興」とは何か、その仮説	
5 継続し続けた10年間の取り組み…復興の「小千谷モデル」	
■第3章 小千谷市復興計画の概要	23
1 小千谷市復興計画とは	
2 復興計画のこれまでの経過	
3 復興計画と総合計画の関係	
4 計画の期間	
5 復興によって目指す小千谷市の姿	
■第4章 10年目の長期検証結果	27
1 長期（新生段階）復興検証について	
2 検証方法	
3 復興課題ごとの検証結果（市民意向調査及び行政評価から）	
4 市民ワークショップの結果	
5 復興感の調査結果～市民意向調査から	
6 復興課題に対する検証の総括	
■第5章 経験・教訓の伝承と支援のリレー	49
1 被災自治体の経験と教訓をどう活かしていくか	
2 経験と教訓のリレー	
3 自治体間の新たな連携の形	
4 次世代に、あるいは全国への継承	
5 「中越大震災の日」の制定	
■第6章 新たな小千谷への挑戦	53
未来への挑戦～震災を乗り越えて、よりよい小千谷へ	
■あしがきにかえて	55
■資料編	66